

おかやまっ子の確かな学びをつくる

岡山型 学習指導のスタンダード

～3つの視点と7つのポイント～

- I 岡山型学習指導のスタンダードについて
- II 3つの視点と7つのポイント
- III 一単位時間の授業5（ファイブ）
- IV 指導の基礎・基本
 - 1 意図的な机間指導
 - 2 板書の構造化
 - 3 ノート指導の徹底
- V 授業を支える学習基盤
 - 1 学習基盤を確立するための規律
 - 2 学び合う学習集団づくり
 - 3 授業外での学習の充実
- VI チェックシート

岡山県教育委員会
平成26年6月



うらっち ももち
岡山県マスコット



日々の授業づくりの中で、こんなことはありませんか？

めあて(目標)を明確につて？

助言者の方から「黒板に書いてあるのは、目標ではなく、タイトルのみです。これでは振り返ることができません。タイトルと目標は異なります。」と、言われたけれど、「目標」と「タイトル」はどう違うの？

(P.4 授業5 (ファイブ) の①へ)

分析から見えるものって何？

「担任も違えば、児童生徒も違う。結果は違って当然。」と、思っていたけれど、データを分析したら、数年同じ傾向が続いていたことがわかったんだって。(P.2 視点1)

まとめは次の時間ね…って、な ってしまって…。

「あともう少し時間があれば、まとめが落ち着いてできたけど、残念でした。でも、児童生徒が活発に取り組んでいたのがよかったですね。」という授業後の反省がありました。

確かに活発に取り組むことは大切ですが、学習の目標は達成できずに終わっていいのでしょうか。

(P.4-5 授業5 (ファイブ) ③へ)

分析をどう取組につなげればいいのか？

「正答率が低い設問が、本校の課題である。」それは間違っていないが、異なったとらえ方をしてみましたか？

(P.2 視点1)



単元末ではできていたのに…

定期考査(単元末テスト)では、十分できていたのに、実力テストだと、まったく結果が出ない……。どうしてかなあ、できていたはずなのに……。

(P.2 視点2、P.10 補充学習へ)

あんなに楽しそうに活動してたのに……。

前の時間では、あんなに盛り上がっていたのに、今回はほとんど忘れてしまっている…どうして？

(P.5 授業5 (ファイブ) ③へ)

「まとめ」と「振り返り」ってどう違うの？

助言者の方から「児童生徒に自主的な活動をうまく展開されていたのに、授業の「まとめ」と「振り返り」とを同時に行っているのが、終末がぼやけてしまっているのが残念です。」と、言われたけれど、「まとめ」と「振り返り」って、どう違うの？

(P.5 授業5 (ファイブ) ④⑤へ)

I 岡山型学習指導のスタンダードについて

教育の営みは、知・徳・体を兼ね備え、将来を担う人材を育てていくことであり、各学校では、様々な教育実践に取り組んでいただいているところです。

特に知の根幹をなす学力については、児童生徒に学ぶ楽しさや分かる喜びを感じさせながら、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うなど、確かな学力を育成することが大切です。このような確かな学力を土台として、児童生徒一人一人が意欲的に個性や可能性を伸ばしていくことが求められます。

児童生徒に「確かな学力」を習得させる場、それは何といても日々の授業です。とりわけ、①「基礎的・基本的な学習内容の定着」と、②「自分で考え、表現する活動の充実」により、児童生徒が、「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」が実感できる授業を進めることが大切です。

そのような授業を行うための基礎・基本を「授業5(ファイブ)」として示し、授業で身に付けた力を確かなものにするため、定期的に学習の定着を確認するテストの活用や、学習基盤を確立するための規律など、学習指導全体を通じ押さえるべきポイントを「岡山型学習指導のスタンダード」としてまとめました。

教科、学年、学習内容等により、それぞれの授業は異なりますが、基礎・基本となる点は同じであると考えます。日々の授業づくりにおいて、この「岡山型学習指導のスタンダード」を推進し、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる授業を共につくりあげていきましょう。



Ⅱ 3つの視点と7つのポイント

〈視点1〉児童生徒の学力・学習状況の把握と課題の明確化を！

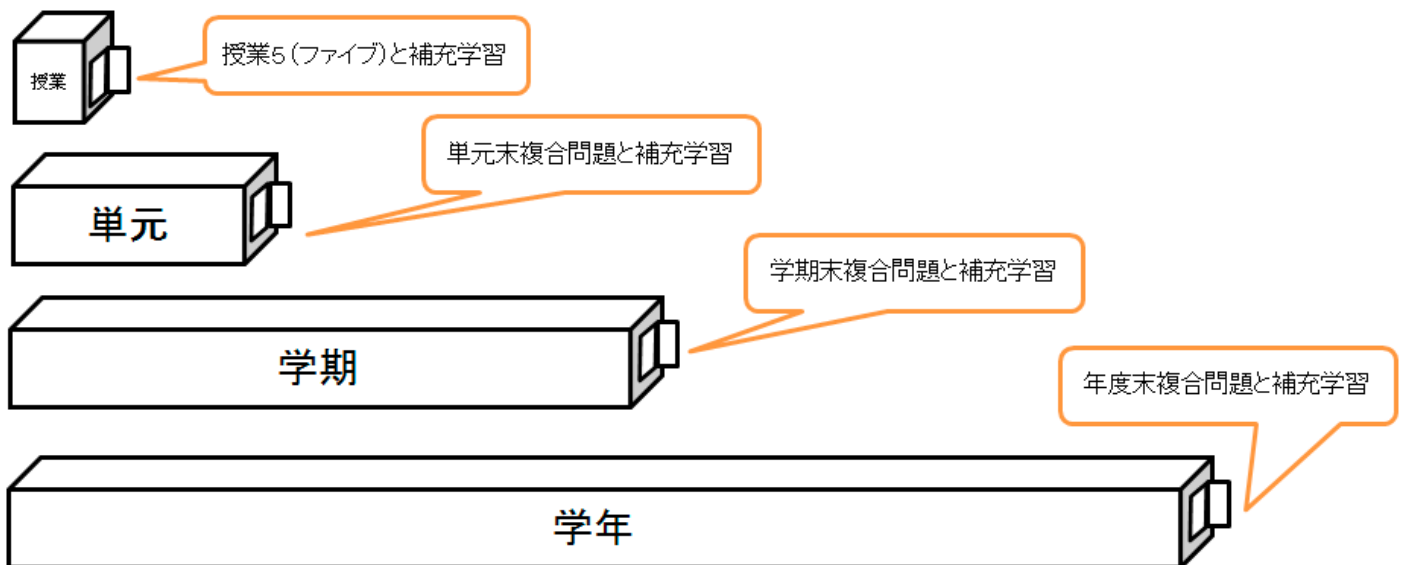
Point 1 全国・岡山県の学力・学習状況調査や学習到達度確認テスト等、多様な資料やデータに基づき、児童生徒の学力の実態を分析・把握し、全教職員で課題の共有を！

〈視点2〉課題改善を図る徹底指導の連続を！

Point 2 一単位時間、各単元、各学期、各学年で、【練習問題、単元末・学期末・年度末複合問題】の実施を！

Point 3 特に、一単位時間の授業で、【授業5（ファイブ）】に基づいた指導を！

Point 4 授業の中で、机間指導の工夫等【指導の基礎・基本】に基づいた指導を！



〈視点3〉学習基盤の確立を！

Point 5 学習基盤を確立するための規律【学びのかなめ（学習用具・時間・姿勢・話し方・挨拶・整頓・掃除）】の指導の徹底を！

Point 6 児童生徒の【出番】と【居場所】を意識した、学び合う学習集団づくりを！

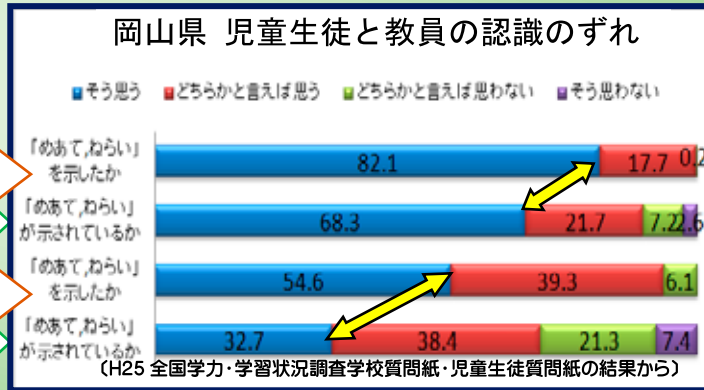
Point 7 授業外での学習（家庭学習と補充学習）の充実からの学習習慣化を！

Ⅲ 一単位時間の授業5 (ファイブ)

授業で育てるおかやまっ子

教員はめあてを示しているつもりでも、児童生徒は？
(小学校で 13.8%、中学校で 21.9%のずれがあります。)

小学校教員
小学校児童
中学校教員
中学生徒



教員と児童生徒の認識のずれはどこから生まれてくるのでしょうか？
同様の結果が「振り返りをしてるかどうか」においても出ています。



授業で必ずめあて(目標)を示し、その目標達成度を確認しよう!

「授業5(ファイブ)」で、1時間の授業中に「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感させよう!

① めあて(目標)を示す。

児童生徒が1時間の学習のゴールを理解すること、児童生徒自身が明確な課題意識をもつことが主体的な学びにつながります。

② 自分で考え表現する時間を確保する。

ただし、目標に応じて、活動内容や時間配分の見極めが大切です。

③ 目標の達成度を確認する。

児童生徒一人一人の目標の達成状況を見届け、個に応じた指導を行うことで、確かな学力を付ける授業となります。

④ 学習内容をまとめる。

目標に対応した学習内容を整理し、「きちんと板書」「ノート指導の徹底」により、押さえます。

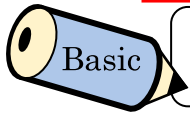


⑤ 授業の振り返りをする。

児童生徒が自分の学びの手応えや意義を感じることは次の学習への意欲になります。

一単位時間の授業5(ファイブ)

①めあて(目標)を示す



○児童生徒が、本時で何をどのように学ぶのかが分かるようにします。



本時で児童生徒に付ける知識・技能や思考力・判断力・表現力は何か、学ぶ意欲をどう高めていくかを明確にすることが、授業づくりの第一歩です。目標を達成した児童生徒の姿を具体的にイメージすることが大切です。



○児童生徒が意識できる「めあて」とは

* 児童生徒に、どうなれば「分かった」「できた」と言えるのかを具体的に示します。

○既習事項等の活用

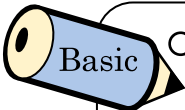
* 児童生徒が、解決する課題が分かり、既習事項などを想起して、解決方法の見当をつけるなど、学習の見通しをもたせます。

この時間を確保するため、
一単位時間のタイムマネジメントが重要です。

導入

展開

②自分で考え、表現する時間を確保する



○一人一人の児童生徒が、めあてに対する自分の考えをもち、その考えを表現することができる方法を示します。
○もった考えを交流することで、考えを深めたり広げたりすることができるようにします。



児童生徒一人一人に、「伝えたい、他の人の考えを聞きたい」と思える「自分の考え」をもたせることが重要です。
グループ学習においても必ず自分の考えをもって話し合いに臨むようにさせることが大切です。



○自分の考えをもつために

* 児童生徒が、めあてに対する自分の考えをもつために、教員は思考・表現の手がかりとなるものを示したり、準備したりします。

- ・考える視点の提示
- ・ワークシートの工夫
- ・資料等の量的・質的充実 など



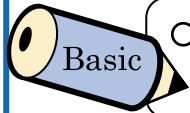
○発表して終わりにしないために

* グループ学習・ペア学習を行う場合は、話し合うこと自体を目的にするのではなく、互いの考えを交流することで児童生徒に身に付けさせたい力を意図した学習活動を取り入れます。

- ・相手に説明する
- ・相手を説得する
- ・互いの考えを比べる
- ・発想を広げる など



③目標の達成度を確認する



○児童生徒一人一人が本時の目標が達成されているかどうかを把握し、達成状況に合わせた個別指導を行います。



めあて(目標)が達成されているかの見届けと、習得状況に応じた個別指導を行うことで、学習内容の定着を図ります。

○めあて(目標)の達成度の確認のための練習問題

* 学習したことを生かして練習問題を解く、自分の言葉で説明するなどの機会を本時の中で確保します。

HINT!

- ・ねらいの達成が不十分な児童生徒には個別指導を行います。
- ・自主的に取り組める発展問題も用意しておきます。

○ノートから分かる目標の達成度

* ノートに何をどのように表現させるかを考えて授業に臨むことで、その観点から個々の達成状況を評価することができます。

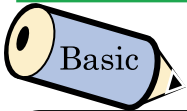
補充学習の充実

○授業とつながる家庭学習の課題設定

* 1時間の授業の中で学習内容が定着しなかった児童生徒には、基礎学力定着のため授業外での補充的な学習や家庭学習等を工夫しましょう。

終末

④学習内容をまとめる



○本時で何を学んだのかが分かるように整理します。



本時の学習で何を学んだのかを整理することで、学習内容の定着を図ることが大切です。

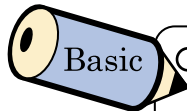
○自分の考えをもつために

* 本時の「めあて」と対応した「学習のまとめ」を行います。

HINT!

- ・その時間の学習内容を整理してまとめるのは教員の役目です。

⑤授業の振り返りをする



○「分かったこと、できたこと、考えたこと」などを自分の言葉で書かせます。



本時の学習を振り返り、自己の変容や学び方のよさを実感させることは、学習内容の確実な定着を促し学習意欲の向上へもつながります。

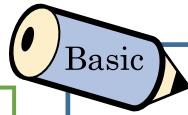
○振り返りとは？

* 向上したことや学び方のよさを児童生徒が自覚できるような「振り返り」を工夫します。

HINT!

- ・振り返りのためのカードやモデルを提示する。
- ・できたことや分かったことなどについて書く。
- ・どのような発見や気づきがあったか、どのように考えが変わったかなどについて書く。
- ・まだ、はっきりしないことや次に確かめたいことなどについて書く。

IV 指導の基礎・基本



明確な意図をもって児童生徒一人一人の状況やグループ活動の様子を把握し、その後の指導に生かします。

1 意図的な机間指導



○学習活動の全体像を見取る

発問や指示をした後、指示どおりにできているかどうか、発問は理解できたかなど、その時の反応や、学級全体の状況を把握し、必要に応じて個別指導や全体指導を行います。

○児童生徒の考えや活動を把握して次の展開に生かす

学習課題に対して、一人一人の児童生徒やグループがどのような考えを持っているのか、活動をしているのか等を把握して、次の学習活動や展開につなげることが大切です。

○学習内容の個別支援をする

学習課題に対する児童生徒の学習状況を把握し、個別に支援をします。つまづいている児童生徒ばかりでなく、理解が早い児童生徒やグループに対しても状況に応じた支援が必要です。

○児童生徒を励ます

机間指導の中で、一人一人への肯定的な声かけをすることで、児童生徒のやる気を育てることができます。

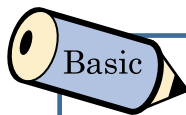


○指導のねらいに応じて声の大きさを工夫する

個別指導は小さな声で行うのが基本ですが、他の児童生徒のヒントにしたり、その子のよさを広めたりしたい場合は、学級全体に聞こえるような大きな声で話すなど、ねらいに応じて声の大きさを工夫してみましょう。

○順番を考える

意図に応じ、限られた時間の中で、どのように回るかを事前に計画を考えておきましょう。

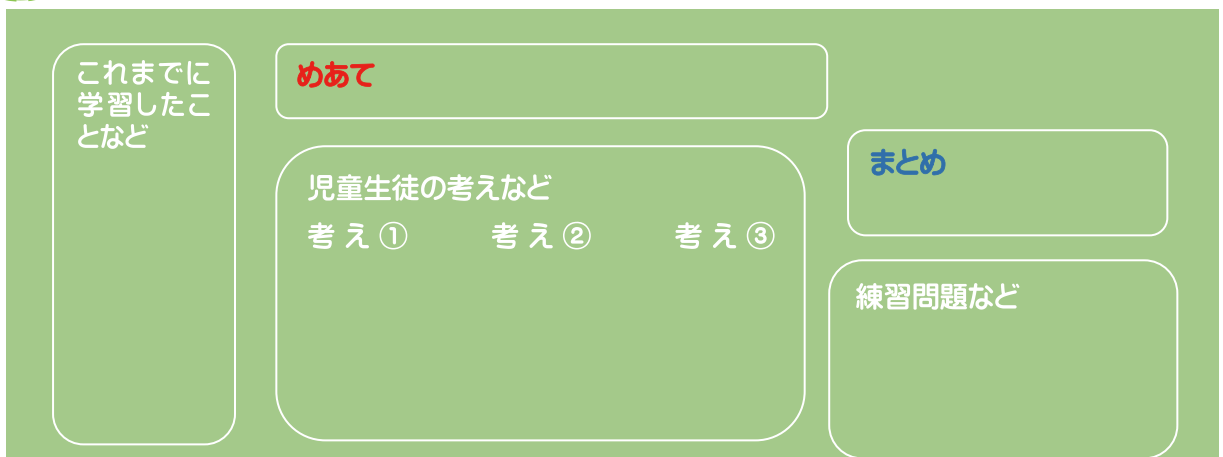
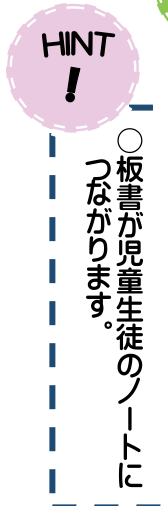


学びの道筋が分かるように構成を考えて、学習のめあて、児童生徒の考え、めあてに対応したまとめを板書します。

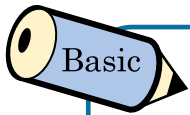
2 板書の構造化



学びの道筋を分かりやすく示すには、「めあて」がどのような学習を通して「まとめ」につながったかを、構造的に板書することが大切です。



3 ノート指導の徹底 ～思考過程が分かるノートに～



自分の考えを書く、学習したことを書きとめる、練習して定着を図るなどの目的に応じたノートの書き方を、発達段階に応じて指導します。

正しい姿勢で、正しい鉛筆の持ち方で書く習慣を身に付けさせましょう。



- ①親指より、人差し指が下になるように
- ②指に、力を入れすぎないように
- ③鉛筆を寝かせすぎず、立てすぎないように



1時間の授業で、何を学んだのか、どのように学んだのかを振り返ることができるノートにすることで、学習内容の定着や学習意欲の向上につながります。

HINT
!

○学習を振り返ることができ、次の学習や家庭学習につながる工夫が必要です。

「日付」「教科書のページ」「問題番号」などは、位置を決めて書くよう指導します。

「めあて」「自分の考え」「まとめ」などは、印や書き方を決めて、黒板にも同じように書くようにします。

9/22
P56 (め) 【めあて】

(考) 【自分の考え】

【友達の考え・自分の考えの変容】

(ま) 【まとめ】

(れ) 【練習問題・発展問題等】

(ふ) 【振り返り】

「分かったこと、できたこと、考えたこと」などを自分の言葉で書かせます。

○ノートを見直す習慣を付けましょう。

〈例〉「前の時間学習したことを、ノートで確認してみましょう。」と促します。

○授業で児童生徒のノートを活用しましょう。

〈例〉実物投影機などでノートを大きく映します。

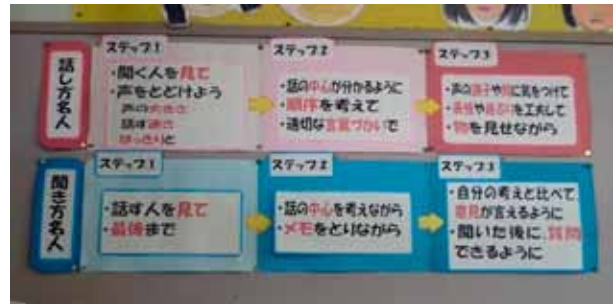
○ノートを点検・評価し、助言や励ましの言葉を書き添えましょう。

〈例〉児童生徒の伸びや変容を見逃さず具体的に示します。

児童生徒がノートに書いた内容やノートの使い方のよさを具体的に示します。

V 授業を支える学習基盤

1 学習基盤を確立するための規律



学びのかなめ

次に備える
 ・ 次の授業の準備をさせて、休み時間に入ります。

時間を守る
 ・ 授業の始めの時刻と、終わりの時刻を守ります。



正しく座る
 ・ 正しい姿勢の基準(鉛筆を持つ、背筋を伸ばす、足の裏を床につける)を各校で示します。
 ・ タイミングをとらえ、繰り返し指導します。



言葉のルール
 ・ 聞き方・話し方のルールを学校で統一します。

～発表の仕方(例)～
 1. 声の大きさ・速さに気をつけて話す
 2. 相手を見て話す
 3. ていねいな言葉で最後まで話す「～です。」「～ます。」「～だと思えます。」
 4. 相手に合わせた言葉づかいで話す

～話の聞き方(例)～
 1. 話をしている相手を見て聞く
 2. だまって最後まで聞く
 3. 共感できたらうなずく
 4. 必要なことがあれば、メモをとる
 5. 疑問に感じたことや、聞き取れなかったところは、もう一度確認する



教員によって指導が異なるのではなく、校内で統一した規律を全ての教員が、徹底することが大切です。



心を整える

- ・「おはよう」「こんにちは」「さようなら」など、相手の挨拶を待たず、自ら進んで挨拶します。
- ・授業の前後の挨拶も、腰から曲げる頭の下げ方を示しましょう。



あいさつ運動で一日をスタート

場を整える

- ・自分たちが生活する環境を自分たちで整えることで、生活がよりよくなっていることを実感することが大切です。



ランドセル・帽子がそろっています



くつがきれいに並んでいます



みんなで掃除すると気持ちいいですね

2 学び合う学習 集団づくり

児童生徒が、授業の中で主体的に学びを進め、互いに関わり合う場面を多く設定することで、認め合い、支え合う学習集団にしていきます。

学校のよさは「共に学ぶ仲間がいる」ことです。そのよさが十分発揮できるような学級づくりをすることが大切です。



出番

★どの子ども活躍(発言)できる場面を…。

- グループ学習等の中でお互いが意見を交換するなど、児童生徒一人一人が活躍(発言)する場面をつくります。
- 「まちがえるところから勉強は始まる」という意識の下、「分からない」「できない」という児童生徒の言葉を大切にします。

居場所

★互いに認め合う関係づくりを…。

- 「～ができるようになったね」など、一人一人の成長した事実を発見し、具体的な言葉を児童生徒に伝えます。
- 結果だけでなく、プロセスをほめる、認める、励ますことを大切にします。

3 授業外での学習の充実

授業では学習内容が定着していなかった児童生徒には、補足的な学習や家庭学習等を工夫し定着を図ります。

授業直後の確認だけでなく、節目には定着の確認を行い、補足的な学習を行うことが大切です。



「ぼっちり!モグモグ」
生活リズム向上
マスコットキャラクター

家庭学習

★授業とつながるように、家庭学習の課題を出しましょう。

○次の授業に生かしたり、確認小テストをしたりするなど、家庭学習の成果を児童生徒が実感できるようにします。

★家庭学習を学習習慣の定着につなげるためのチェック項目

- 家庭学習の手引きなどを作成し、学習時間の目安等を保護者に提示しているか。
- 保護者に通信や懇談等で、授業の様子や児童生徒の頑張りを伝えているか。
- 家庭学習強化週間等を設定しているか。
- 教科・学年ごとに家庭学習の統一的な出題方針(内容・量)や、評価方法(成果の評価規準)を設定しているか。
- 中学校区での家庭学習に関する意見交換の場を設定しているか。
- 模範ノートの展示、自主学習ノートの紹介をしているか。

「学び方」だより 第2号〈高学年・算数自主学習ノートの巻〉

「な」
「か」
「た」

家庭学習がんばりチェックカードより

- テレビを消して勉強に集中している時間が増えてきたと喜んでいます。自分で書えて勉強に取り組みやすくなったのがな。
- 算数の予習のノートも、自分なりに工夫して書いていました。
- お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、みんな「頑張ってるよ」と言ってくれて、とっても嬉しいです。これからもがんばってね。
- 自主学習を習い事で遅くなった日もじっくりやっている姿に感動しました。続けていけると良いですね。

補充学習

★目標達成度の確認を行い、課題が見られる児童生徒には、個に応じた手立てを打つことが大切です。

○教育計画に補充学習の時間を位置付ける等、学校全体で計画的に行います。

- ・単元末、学期末、年度末に複合問題等を活用して、達成度を確認し、その都度、目標に達していない児童生徒には、支援を行います。

○地域の人材やボランティア等の外部の協力を得ることも行います。

VI チェックシート

Check



「授業5(ファイブ)」と「学びのかなめ」をチェックしてみましょう!

導入

・前時までの既習事項の確認を行っている。

1

・めあて(目標)が、児童生徒が「分かった」「できた」と言える表現になっている。

2

展開

・めあてに対する児童生徒の考えを「発表する」「説明する」「話し合う」「読む」「書く」などの言語活動の時間を確保している。

3

・授業展開に応じて、必ず自分の考えをもたせながら、グループ学習やペア学習などを効果的に取り入れている。

4

・机間指導を行い、学級全体の状況を把握するとともに、児童生徒一人一人の学習状況を確認し、指導に生かしている。

5

終末

・本時で学習内容を生かして、練習問題を解いたり、自分の言葉で説明する時間を確保している。

6

・目標を達成しない児童生徒に対して、個別指導を行っている。

7

・児童生徒のノートを授業に活用したり、評価の材料にしたりしている。

8

・めあてと対応して、本時で何を学んだのかを整理し、黒板に板書している。

9

・板書は、授業内容を構造的で分かりやすく示すものになっている。

10

・「分かった」「できた」と児童生徒が自覚したことを自分の言葉で書かせている。

11

学習規律

・次の授業の学習用具の準備を休み時間に行わせている。

12

・授業の始めの時刻と、終わりの時刻を守っている。

13

・授業の始めと終わりや、授業中にも正しい姿勢をするように呼びかけ、徹底している。

14

・聞き方、話し方の手本を示している。

15

・くつ、ロッカー、掲示物が整っている。

16

・授業の始めと終わりの挨拶ができています。

17

学習集団づくり

・児童生徒一人一人が活躍(発言)する場面がある。

18

・ほめる、認める、励ます言葉を児童生徒にかけている。

19

授業外学習

・授業とつながる家庭学習の課題を出している。

20

・単元の終わりに「単元末複合問題」と「補充学習」を行っている。

21

・学期の終わりに「学期末複合問題」と「補充学習」を行っている。

22

・年度の終わりに「年度末複合問題」と「補充学習」を行っている。

23

・全国・岡山県の学力・学習状況調査や学習到達度確認テスト等、多様な資料やデータに基づき児童生徒の学力の実態を把握・分析し全教職員で課題を共有している。

24

私の実践記録





